

市長懇話会結果報告書

市長懇話会について

目的	市内の様々な分野において活躍されている団体と市長が直接対話し、地域課題等を意見交換することにより、市政への参加促進を図るとともに、総合計画の策定に活用することを目的とする。
実施日時・場所	第1回：令和5年11月 7日（火） 13:00～14:15 第2回：令和5年11月 7日（火） 16:30～17:30 第3回：令和5年11月17日（金） 14:00～15:00 } @伊勢崎市役所東館 3階 災害対策室
対象団体 【分野】	第1回：NPO法人伊勢崎日本語ボランティア協会（出席者4名） } 【多文化共生・教育】 子ども日本語教室・未来塾（出席者3名） } 第2回：伊勢崎市PTA連合会（出席者5名） } 【教育・スポーツ】 一般財団法人伊勢崎市スポーツ協会（出席者5名） } 第3回：伊勢崎市防災と福祉を考える会（出席者4名） } 【防災・福祉】 伊勢崎市障害児者親の会ネットワーク（出席者5名） }
テーマ ※各回共通	テーマ1：地域の課題及び理想像について 貴団体が伊勢崎市で活動を行う分野や取り巻く環境において、現在感じている課題や今後懸念される事項等がございますか。 また、貴団体の活動内容と関連した理想の伊勢崎市の姿についてご意見をお願いします。 テーマ2：今後の方向性について 今後、伊勢崎市が理想に近づくために、あるいは、地域の課題に対する対応策を進めるために、貴団体と伊勢崎市とが連携して取組を進めていく必要があると考えます。 そこで、貴団体が考える行政機関としての伊勢崎市の役割や、貴団体と伊勢崎市においてどのような連携が必要になるか考えをお聞かせください。

各団体の意見要旨について①

多文化共生・教育

団体	N P O 法人伊勢崎日本語ボランティア協会
団体概要	伊勢崎市国際交流協会から委託を受け、市内に在住・在勤の外国人の方を対象に日本語教室を開催している。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ 外国人への支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 外国人の方は日本語教室に参加し、熱心に学習している。➢ 日本語教室の場では、日本語を使用しコミュニケーションを図っているが、私生活の場（地域）では勉強した日本語を活用できていない。➢ 日本語を教えるボランティア講師が不足しているが、講師の中には来日後に日本語を勉強して講師になっている外国人もいる。外国人自ら、他の外国人のために行動することも重要。➢ 日本語講師ボランティアの養成講座を開催しているが、養成した方が実際に講師として現場の教室に来て定着し、日本語教室に限らず様々な力になってくれるようになると良い。➢ 日本語教室は、単に日本語を学習する場ではなく、外国人の方が何かにつづりに困った際に相談できる場としての機能も果たしている。➢ いろいろな相談を受け、こちらでは対応できないこともあるが、親身に相談に乗り、次につなげる必要がある。■ 外国人に向けた情報発信について<ul style="list-style-type: none">➢ 情報発信の際には多言語対応を充実してほしい。■ 日本人と外国人の交流について<ul style="list-style-type: none">➢ 地域において、日本人と外国人が集まり、日本語で交流できる場があると良い。➢ ごみ捨ての際などに交流できると良い。➢ 外国人の方には祭りやイベントに出店という形で積極的に参加してもらい交流を深めるとともに、自身の国の文化を日本人に伝えてもらえるといい。

各団体の意見要旨について②

多文化共生・教育

団体	子ども日本語教室・未来塾
団体概要	伊勢崎市教育委員会から委託を受け、市内の小中学校に通う外国につながる子どもたちへの日本語と教科学習の支援教室を開催している。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ 日本語が苦手な子どもへの支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 外国人の子ども達への日本語や教科学習の支援をしており、学校の担任に情報提供なども行っている。継続的に支援教室に通わない子どももいるので、学校と連携して継続参加を促す必要がある。➢ 高校入試のタイミングを迎える生徒に対する受験支援も実施しているが、日本語が苦手な子どもの義務教育期間後の進路について行政と連携して支援する必要がある。➢ 子どもが日本語を話せても、保護者が話せないケースもある。保護者も日本語を学習できる仕組みもあると良い。➢ 公立学校や外国人学校など子どもが学ぶ場所については子どもの状況に応じて適切に考える必要があり、市が就学コーディネーターのような役割を果たしてくれると良い。➢ 外国人の子どもをしっかり育て、将来的に社会で活躍してもらうことは、少子化問題への対応としても重要である。➢ 親の在留資格が切れる子どもへの対応を検討する必要がある。■ 日本語講師ボランティアについて<ul style="list-style-type: none">➢ 日本語講師ボランティアについては伊勢崎市外から来てくれている方が多いので、市民のボランティアも増えていくと良い。➢ 市外で活動している日本語講師ボランティアとも連携して、広域的に活動していくことも重要である。➢ 現在も学生ボランティアがいるが、更に学生ボランティアの力を借りられる方策があると良い。■ 活動への支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 教室を開催する施設に教材を保管する場所がなく、ボランティア講師がその都度持ち帰っている。保管場所について支援が必要。

各団体の意見要旨について③

教育・スポーツ

団体	伊勢崎市PTA連合会
団体概要	市内小・中学校のPTA会長等の代表者による連合会。各種学校行事、地域貢献活動などを実施している。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ P T Aについて<ul style="list-style-type: none">➢ PTAについては、組織として継続していくことが課題。「ワークライフバランス」が重要視されている中で、地域との関わりをどのようにもっていくか、そうした役割をどのように担っていくのが重要である。➢ PTAの役員は時間に融通の利く自営業の方々が担うことが多いが少数派であり、本当の意味での一般的な家庭の教育や子育てに関する意見が行政まで届きにくくなっている。仕事や家事で時間的に忙しい方や外国人の方などは役員になりにくい現状がある。➢ 学府（中学校区）を単位として、中学校と小学校のPTAが連携を図れると良い。PTAの担い手不足の解消にもつながると考える。➢ PTA活動の合理化のために、例えば学校のWi-FiをPTAの活動にも利用できるようにするなど、行政側の協力が必要である。■ 教育現場について<ul style="list-style-type: none">➢ 子どもに一人一台タブレット端末が配布されているが、外部の専門家を招いて正しい使い方を教えるなどのICT教育を行う必要がある。➢ 部活動の地域移行は、地域スポーツの担い手づくりや、教員の負担軽減にもつながる取組である。行政には地域、学校、教師、スポーツ団体と調整する役目を担ってほしい。➢ 中学校区で学用品を統一してほしい。リユースしたり、小学6年生でも中学校を見据えて体操着を買い直したりできるのではないか。■ 子育て支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 子どもが大きくなるほど行政の財政的支援も少なくなり、その分仕事をする必要がでてきてPTAなどの地域活動に割ける時間が少なくなるため、支援があるとよい。

各団体の意見要旨について④

教育・スポーツ

団体	一般財団法人伊勢崎市スポーツ協会
団体概要	市民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図り、健康で明るく豊かな市民生活の向上発展に寄与することを目的とし、市内のスポーツ振興に取り組んでいる。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ 市内のスポーツ団体の活動について<ul style="list-style-type: none">➢ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、競技人口は減少している。活動を休止して再開できない団体もある。➢ 加盟団体の役員が高齢化している傾向がある。若い方がもっとスポーツに興味を持ち、団体に協力してくれると良い。■ スポーツ施設について<ul style="list-style-type: none">➢ 華蔵寺公園施設の駐車場の少なさや、市内のスポーツ施設における空調設備の未設置などについては対応が必要だと感じる。➢ スポーツ施設の数も少ない。国際大会を誘致できる施設を整備して、スポーツ人口を増加できると良い。➢ 市内の空いた土地にフットサル場やバスケットコートをつくるなど、身近にスポーツを楽しむ場をつくることができると良い。■ 市民に向けた啓発について<ul style="list-style-type: none">➢ 2029年に群馬県で国体があるので、各学校とも連携して盛り上げていけると良い。➢ スポーツイベントの開催の際、市民の方々に周知しきれない部分がある。地域の方やPTAなどと協力できると良い。➢ 最近はバスケットボールが盛んである。プロの競技する姿を直接見てもらうなどすれば、競技人口が増えていく可能性もある。➢ 部活動には、中学生が様々なスポーツを知るきっかけという役割もある。部活動の地域移行をすすめる際には、そうしたスポーツを見せる取組を行うことも必要である。➢ 伊勢崎市は外国人が多いので、マラソンなどのイベントの際には「一緒に参加しよう」と呼びかけて共に参加できると良い。

各団体の意見の要旨について⑤

防災・福祉

団体	伊勢崎市防災と福祉を考える会
団体概要	防災と福祉についての正しい理解を広めることや、市民の防災・減災技能の向上を支援するため、講演会や体験会などを開催している。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ 市民意識について<ul style="list-style-type: none">➢ 伊勢崎市は安全なところだという認識が市民に広がっている。しかし、令和元年度の台風の時には避難勧告が出され、要支援者の情報の伝達など、様々な課題が出てきた。■ 総合防災マップの活用について<ul style="list-style-type: none">➢ 総合防災マップには様々な情報が載っていて良くできているが、断層面の情報など、他にも掲載する情報の検討が必要である。➢ 総合防災マップを活用した啓発活動を行っていく必要がある。■ 地域の防災体制について<ul style="list-style-type: none">➢ 市の防災部門と介護・福祉部門がしっかりと連携して、要支援者名簿などの情報が地域にも共有されるようにしてほしい。情報があれば、地域包括支援センターにおいても見守りなどの行動ができる。➢ 要支援者名簿に登録していない障害者や高齢者世帯など、支援を必要とする可能性のある人を把握することが必要である。➢ 移動が大変な高齢者等を考慮して、身近に小規模な避難所の設置を検討してほしい。➢ 地域の防災体制の強化には、日ごろから近所同士でコミュニケーションをとることが重要である。■ 行政との連携について<ul style="list-style-type: none">➢ 市において図上訓練等を実施していただき、会としてもこれから協力していきたい。図上訓練では、人材やトラックなどの災害時に役立つ地域資源について把握することもできる。➢ 地域で管理している集会施設などを、避難施設として活用できるようになると良い。■ 災害時に支援が必要な人への対応について<ul style="list-style-type: none">➢ メッセージカードや玄関に旗を掲げるなどして、災害時に高齢者等の避難できない人が周囲にその旨を周知できる仕組みがあると良い。

各団体の意見の要旨について⑥

防災・福祉

団体	伊勢崎市障害児者親の会ネットワーク
団体概要	知的・発達障害児者・重度心身障害児者の保護者団体が加盟し、情報交換や交流のための定例会を毎月開催している。今後の障害児者福祉の向上について考え、障害児者を取り巻く環境を整備することを目的とする。
意見要旨	<ul style="list-style-type: none">■ 障害児者への支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 市内には、重症心身障害者等が教育を受けたり、福祉サービスを受けたりできる場所が十分でない。➢ 災害時にどこに避難すれば良いかを具体的に示してほしい。➢ 障害児者の中には見知らぬ人と行動することが苦手な方もいるため、これを考慮した災害時の避難支援が必要である。■ 障害児者を持つ家族への支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 重症心身障害者の中には24時間医療的ケアが必要な方がおり、看護師の配置などで本人や家族が安心できる居場所が必要である。➢ NICU（新生児集中治療室）が市内にはなく、出産直後でも市外の病院に通わなければいけないことは大変である。➢ 行政の支援内容や、新たな取組（特別支援学校高等部の新設）の情報が入手しにくいと感じている。■ 地域における支援について<ul style="list-style-type: none">➢ 地域の住民は、近隣に障害児者がいても知らない場合が多く、避難所などの公共の場におけるトラブルにつながる恐れがある。気軽に交流して互いを理解できると良い。➢ 民生委員など支援する側が高齢化しており、手助けしてくれる若い人を増やしていく必要がある。➢ 近所付き合いが希薄になっていると感じている。緊急時に助け合うためにも日頃のコミュニケーションが必要である。